

# 職員オススメ本 5月



「成瀬は天下を取りにいく」 宮島 未奈／著 新潮社

「島崎、わたしはこの夏を西武に捧げようと思う」そう宣言した成瀬は、西武大津店の閉店をカウントダウンする地元テレビの中継に通り出した。

他にもM-1への出場、髪伸び方を検証するために高校入学時に丸坊主にする等自分の考えに忠実で、まっすぐに突き進む成瀬あかりの姿を、幼稚園からのつきあいである島崎をはじめとした周りの人々の目を通して描き出していく。

作品の所々に舞台である滋賀県の描写があり、“滋賀愛”に満ちた青春小説です。



「答えは市役所3階に 2020心の相談室」 辻堂 ゆめ／著 光文社

立倉市役所では新型コロナウイルス感染症流行の状況を受け、臨床心理士と認定心理士の二人が常駐する『2020こころの相談室』を開設する。

相談室には、将来の夢を失った高校生や婚約者を失った男性、幸せな未来を失った育児中の女性などコロナ禍で悩みや秘密を抱える人々が訪れる。

心理士が何気ない会話から相談者の悩みを推理する連作短編ミステリーです。



「分岐駅まほろし」 清水 晴木／著 実業之日本社

人生の分岐点に戻れる『まほろし』という駅。3つの条件すべてが重なった時、まほろし駅へたどり着けるといふ。

ただし、あくまでも人生の分岐点に戻り、今とは違う選択肢の人生を歩んでいたら…を知ることができるだけで、過去を変えたとしても現実には一切何の影響も及ぼすことはない。

違う人生を歩んだことで今を見つめ直し、大切な何かに気づかされる5人の物語。